

第 10 回 コールドチェーン物流サービス規格(JSA-S1004)に関する普及検討委員会 議事要旨

1. 日時

2024 年 2 月 28 日(水) 13:30-15:00

2. 会場

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング内会議室(オンライン併用)

3. 議事要旨

(1) フィリピン・ベトナムにおける政策対話・ワークショップ開催について

事務局より、フィリピン・ベトナムにおける政策対話・ワークショップ開催について説明を行った。

委員からは、主に以下のような発言があった。

- 一般消費者の感覚については、コロナを経てニーズの変化などがあるかもしれない、将来的な課題として認識してもらいたい。
- 消費者代表がいなくとも、スーパーマーケットなど小売業者が売り手として、消費者の意向をどうみているのか、どこにニーズがあるのか、こうすれば優位に立てると考えている、ということが重要である。流通業者の中でも、こうした消費者に近い所にアピールしたほうがよい。
- フィリピンでコールドチェーンを広げていくための阻害要因は何か。インフラなのか、担い手となる事業者が少ないのか、消費者・小売業者のニーズ・意識がまだ低いのか。その分析でアプローチが変わってくるので、見極めた上で、何からやっていくのが重要である。引き続き分析をしっかりと行ってほしい。

(2) フィリピン・ベトナムにおける実証実験結果について

事務局より、フィリピン・ベトナムにおける実証実験結果について説明を行った。

委員からは、主に以下のような発言があった。

- ベトナムについては、今の段階では効果があることは理解したが、これから拡大していこうとすると、少量のものにとどまると一時的なものになってしまうか懸念がある。ケース当たりのコストがなかったが、そのあたりを知りたかった。
- フィリピンについては、パターンごとに輸送コストがどれだけ違うかがキーとなる。特に段ボールに入れるかどうかで、段ボール代や労働力も変わってくる。食品ロスも考えるとコストメリットがあるということが出せるとよりよい実証実験の結果となる。

- 両国とも JSA-S1004 に適合しているとのことだが、マニュアルが整備され、そのマニュアルに従って、誰がやっても規格の要求事項に適合するような体制になっていることが重要である。規格への適合状況の確認が今回のような簡易なやり方であるとの誤解を与えないような表現が必要である。

以上